

土にかえる日数～夏休み26日間の記録～

立川市立第九小学校
6年 網中 悠人

1 研究の動機

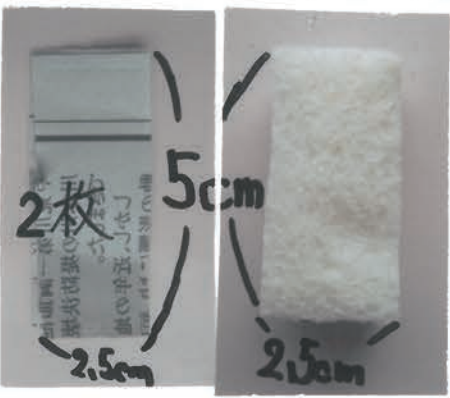
国語の授業で食品ロスについて話し合いをした。また祖母が大晦日にお正月料理で出た野菜くずなどをみかんの木の下に埋めている。毎年の事なのでまた埋めようと同じ所を掘ると何も出てこない。去年は玉子の殻の小さいのが2,3個出てきただけだった。あんなにいっぱいあったのに、きれいになくなる事におどろいたので、夏休みの間にどのくらいなくなるのたろうと思った。

2 予想

一年かけてなくなつたのだから、たったの26日間だから、なくなってしまう事はないだろう。どのくらい小さくなるのたろうと思った。

3 研究の方法

①庭に、深さ10cmの穴を7つ掘った。

②  新聞紙と食パンをそれぞれの穴に埋めた。
・新聞紙はたい肥にできるゴミ、きいゴミの両方に載っていただけだったので。

- ③3日ごとに一穴ずつ掘って確かめた。
- ④3日後に掘ったら食パンは完全に消えていたので、また10cmの穴を6つ掘った。
- ⑤リンゴと新聞紙をその穴に埋めた。

 厚さ1.5cm
新聞紙はこのようにぐちゃぐちゃにして埋めた。

⑥3日ごとに一穴ずつ掘った。
※掘る時に、5cmくらいまではシャベルで掘って、あとは少しずつ手で土をほぐしながら掘った。

4 研究の結果

7月29日 ・深さ10cmの穴を掘って埋めた



8月1日



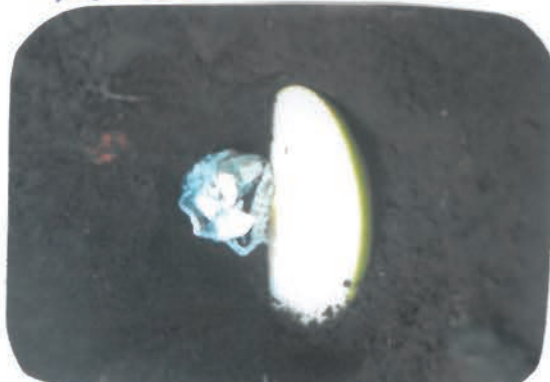
何もなし



新聞紙

・見た目、穴の中は何もない。手で土をほぐしていくと手に写真のような新聞紙がひっかかった。
・パンはかけらも見つからない。
・考えたがとなりの穴を掘ってみた。何もなかった。新聞紙のかけらすら手にひっかからなかった。

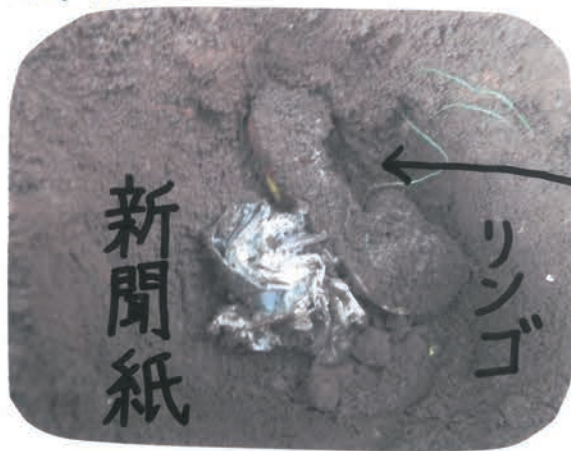
8月1日



パンはアリ(周りにアリ)は一匹もいなかったが、食べられたかな。新聞紙は小さすぎたかなと思った。

・実験をやり直すことにした。
・リンゴ厚さ1.5cm。新聞紙一辺10cmの正方形の物2枚をまた穴を掘って埋めた。新聞紙は軽く丸めた。

8月4日



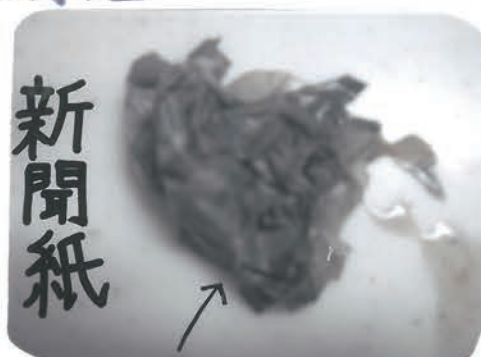
・新聞紙は広げてみたら
ほぼ変わらない。
・リンゴは真ん中あたりが
少なくなっていた。
さわった感じはかたさを感じた。

8月22日



・土と一緒にな
って、ふるいの上
でやさしく水で流
した。さわることは
できなかった。

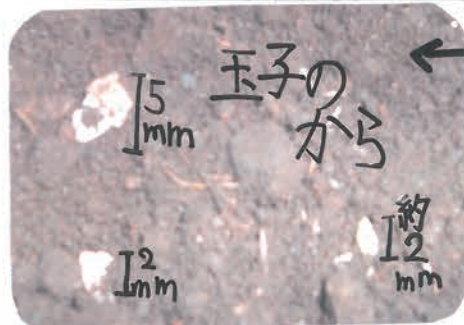
8月7日



・新聞紙はさわったら
やわらかい。

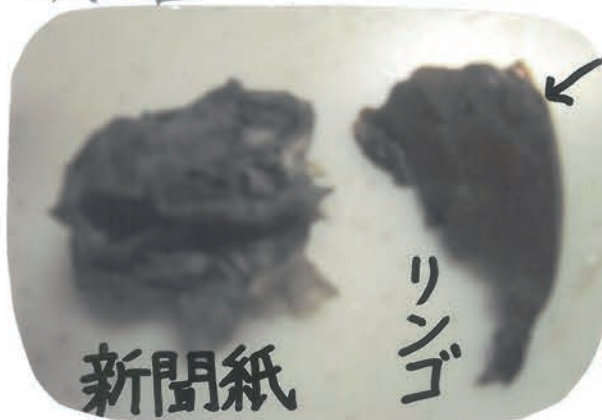


ところどころ字が読める。



・12月31日に埋めたみか
んの木の下を掘った。こ
のよに小さな玉子のから
しか出てこなかった。

8月10日



・リンゴはほぼ
半分ぐらい
新聞紙はやわ
らかく、手でさわると
切れる。

8月13日



・リンゴは土と混
ざっていた。水で、
やさしく土を流した
やわらかいプリン
のような感じでよく

・新聞紙も、ほぼリンゴと同じような触感。

8月16日



・掘り出したら、両方
とも土と混ざって
いて、見た目では同
じに見えた。
・リンゴはほぼ皮の
部分が残っていた。

・新聞紙もリンゴもグニャグニャ。しかしリンゴは皮の部
分が手に残る感じがした。

8月19日



・土と一緒にな
って、掘り出すのが難
しかった。土と区別が
つかなかった。

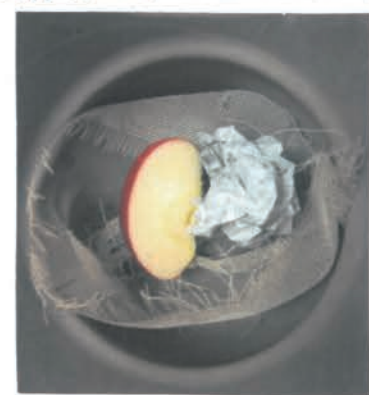
5分かったこと

この実験をする前は、26日間では大きく変わ
らないと思った。しかし、食パンは3日でなくなっ
てしまい、小さな新聞紙もほぼなくなりました。だ
が、より大きなリンゴ、新聞紙に変えてからは、変化が
良く分かった。だんだんと土と同じ色になってきて、
間に土が入りこんで、見ただけでは土と区別が
つかなかった。最後には土をふるいにかけて、残
ったかたまりをやさしく水で流したらようやく新聞紙
リンゴと分かったことから考えると、土に分解する働
きがあるのだろうということも分かった。
「土の中の微生物が生ゴミを分解すると本に
書いてあった。その様子が分かった。」

6 研究のまとめ

「土にかえる」と言われているが、よい土を
作り、土を大切に、土を守っていく事が、人間
の生命と暮らしを守り、豊かにしていくと本に書
いてあった。ほくにごめることとして、ごみの分別をし
ようと思った。

土がないと分解できないのだろうかと思
ったので、最後の日(8月23日)に植木鉢の中に
土を入れずにリンゴと新聞紙だけを入
れて、ふたをして日かげに
置いた。何日ぐらいでど
うなるのか楽しみだ。



7 参考文献

土の系会本 環境を守る土 日本土壤肥料学会
農文協 発行 2002年 3月31日